

養父市立養父中学校 令和3年度学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

令和4年3月18日

1 学校教育目標

自分のよさや可能性を見つめ、自己肯定感を高めながら、主体的かつ協働的に活動する生徒の育成

2 本年度の重点目標

- ・「指導の個別化」と「学習の個性化」を意識した指導方法等の工夫改善
- ・GIGAスクール構想に基づく学習用タブレット等の活用
- ・新学習指導要領の全面実施に伴う学習評価の実践的研究の推進
- ・共感的な生徒理解と毅然とした対応による生徒指導の充実
- *コロナ禍における弾力的な学校運営と保護者・地域との連携・協働の推進

4 総合的な学校関係者評価

「コロナに負けない、負けてたまるか」という強い気概を共有しながら、「明るく、元気に、前向きに、仲間とともに」を合い言葉にして教育活動に臨んだ1年間であった。その時々々の感染状況等に大きく影響されないためにも、学校内の日常的な衛生環境を整えながら感染拡大防止の取組を徹底させるとともに、家庭に啓発し、取組の協力依頼を続けることにより、主な学校行事を当初の予定どおり実施することができた。また、年明けからの数度の登校停止措置に対しても、家庭訪問による課題提供やタブレットを活用した学習を効果的に組み合わせることにより、学びの連続性の確保を図ることができた。

諸活動に関してコロナ禍だからこそ学べたこと、改善できたことを整理し、さらに改善に取り組んでいくことにより、従前からのマンネリの打破につなぎ、ポストコロナに向けた新たな本校のスタンダードを構築していきたい。

なお、下記の達成状況における「C」や「D」については、コロナ禍の影響により当初の計画どおりの実施がままならなかったことが大きく影響している。

3 学校自己評価結果 < A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 >

分野	評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
小中一貫教育の推進	・小中一貫教育の推進体制の構築と取組の焦点化 ・小中一貫教育に関する保護者・地域の理解の推進 ・小中のつながり・学びのつながりを踏まえた学習指導	C	・学年部会(後期)の取組内容を精選して、実践を共有できた。 ・地域と連携し、小中合同のリサイクル活動等を展開した。 ・学習指導に係る改善方策を焦点化して取り組む必要がある。
危機管理体制の整備	・生徒の危機管理対応能力の育成 ・保護者・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	B	・防災教育資料を活用し、震災の教訓に学ぶ授業を工夫する。 ・感染状況等を踏まえ、消防署等の助言を生かして弾力的に実施した。
教職員の資質向上	・授業の工夫改善、業務改善の積極的な取組の推進 ・課題を共有した校内研修体制の確立 ・生徒理解と指導技術の向上に関する研修の実施	B	・道徳の授業公開を中心に、指導方法等の工夫改善を図る ・授業改善実践研修事業等へ積極的に参加した。 ・生徒との信頼関係を構築した指導に徹した。(体罰の根絶)
施設設備の整備	・施設設備の安全管理体制の整備、安全点検の定期実施 ・学校環境の整備	A	・安全を優先に、修繕や新規設置に積極的に取り組むことができた。 ・感染防止対策として、衛生環境を整えることができた。
業務改善 勤務時間の適正化	・学校業務改善(職員会議の効率化) ・勤務時間の適正化に向けた取組 ・生徒と向き合う時間、分掌業務・授業準備等の時間の確保	B	・会議の効率化、職員の意識改革を図った。 ・ノ一部活デー、定時退勤を全職員が心がけ、確実に実施できた。 ・分掌担当や教職員が相互に協力し合うことで、時間の確保ができた。
生徒指導の充実	・報告・連絡・相談の徹底と関係機関・家庭保護者との連携 ・いじめのない学校づくり(積極的認知と組織的な早期対応) ・よりよい人間関係・学級づくりに向けた実態調査結果の活用	A	・教育相談の機会を積極的に設けて、早期に対応することができた。 ・いじめアンケートを学期に2回行い、教育相談、指導等を迅速に行った。 ・生活アンケートやi-checkを活用して学級経営の見直し・改善に努める。
学習指導	・きめ細かな学習指導と学習意欲を高める授業づくり ・小中のつながり(学びのつながり)を踏まえた学習指導	B	・少人数授業や同室複数指導を実施し、授業改善に取り組んだ。 ・学習評価の在り方について、さらに実践的研究を積み重ねたい。
道徳教育	・道徳実践力の育成 ・ローテーション授業の実施と道徳の評価の改善工夫	B	・生徒の日常的な良さを授業に還元するような取組も工夫したい。 ・ローテーション授業で効果的に授業研究に取り組むことができた。
総合的な学習の時間	・主体的な課題発見・解決につながる学習指導	C	・マンネリ化しないように問題意識を持って実践を深化させたい。
特別活動	・主体性を育む行事の工夫改善と生徒会活動の充実	A	・生徒の主体的な企画による生徒会活動が推進できた。
キャリア教育	・高校入学選抜制度を踏まえた進路指導の充実 ・「そうあんくんの日」の取組を含むキャリア教育の研修の推進と実践化	B	・3年間を見通して体系的な進路指導に取り組むことができた。 ・持続可能なように「そうあんくんの日」の取組を工夫する必要がある。 ・研修の機会の確保と、キャリアノート等の取組の工夫を図る。
人権教育	・自尊感情を育み、人権意識を高める指導 ・校是「生きるとは分かちあうこと」の具現化	B	・人権週間(人権作文の発表)を実施し、充実を図った。 ・人権感覚の向上をテーマとした研修を実施する。
特別支援教育	・個別的教育支援計画・指導計画に基づいた指導・支援 ・通級指導の工夫改善を通じた「通級」への理解促進 ・SCやSSW、県立特支学校CO等との連携強化	B	・生徒の状況把握とその共有化により見直しを図り、実践化に努めた。 ・保護者とのこまめな情報共有により緊密化を図り、理解を促せた。 ・生徒の状況に応じて助言を仰ぎ、指導・支援の一層の工夫を図る。
情報教育	・ICT機器等の活用による指導方法等の工夫 ・タブレットの利用機会の促進とその価値付けの共有化 ・生徒の情報モラルの向上に向けた家庭との取組の強化	B	・ICT機器を活用し、生徒の関心・意欲を高める授業を実践した。 ・「そうあんくんの日」について保護者の理解、家庭の協力を依頼する。 ・PTAと連携して、実態調査の結果に基づいて啓発活動に取り組んだ。
国際理解教育	・国際理解、多文化共生の態度の育成	D	・身近に交流する機会もなく、取り組む動機付けが薄くなりがちである。
福祉教育	・福祉体験活動の推進、高齢者・障害者の理解(人権意識)	B	・感染状況等に応じて、関係事業所等と協働して弾力的に実施した。
食育	・食育と給食指導の充実	A	・感染状況等に応じて、栄養教諭と連携して弾力的に実施した。
環境教育	・環境問題に関心を持ち、課題解決への意欲を高める指導	D	・コロナ禍により校外での活動もできず、取組不足となっている。
健康教育	・健康に関する実践意欲を高める指導(眼育の推進)	A	・実態調査を踏まえて眼育等の取組を具体的に進めることができた。
読書活動	・朝読書の充実(図書室の活性化)	B	・密を回避するため、図書室利用に制約を設けざるを得なかった。

5 評価項目の学校関係者評価

自己評価の適切さ
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で教職員の交流の機会がなかなか確保できなかったが、建屋小による授業公開・実践交流会が実施できたことがよかった。 ・地域に根ざした防災教育に取り組めないか、自治協議会とも連携したさらなる工夫に期待している。 ・ミドルリーダーが不足し若手教員が増える中、叱り方など、具体的な指導方法についてさらなる研修を期待したい。 ・安全確保の点からも、引き続き計画的に修繕等に当たってほしい。 ・感染の拡大状況に応じて部活動の取扱いがその都度変更されたが、中学校間の情報共有と共通実践を図る手立ての工夫が必要である。 ・校則の見直し等、生徒の現状と保護者の要望等に丁寧に対応しながら進めてほしい。 ・こまめな教育相談等、これまでからの取組の良さを今後も継続させてほしい。 ・学習評価については、引き続き実践的研究に取り組んでほしい。 ・授業の質的な向上に向けて、講師を招聘するなど、さらなる研修の積み重ねと工夫に期待したい。 ・キャリア教育が硬直化していないか、改めて取組の見直しを図り、特色を打ち出してほしい。 ・人権週間の取組など、これまでからの取組をさらに発展してほしい。 ・生徒一人一人の良さを伸ばしと困り感の改善のため、引き続き関係機関との連携を図りながら保護者の支援を含めて取り組んでほしい。 ・タブレットの活用については、目的を明確にしながら必要に応じて取り組み、効果的に学習指導等に役立ててほしい。 ・コロナ禍において生徒の生活状況が変わってきていると聞く。眠育など、生徒が自分の日常を見つめて生徒自身が改善を図っていくことに意義は大きい。引き続き効果的に取り組んでほしい。